

この度、専修医海外留学制度を通して約 2 か月間、VA 研修に行かせていただきました。Psychiatry (4 週間), Oncology/Hematology (1 週間), Palliative care (1 週間), Geriatrics (1 週間) を選択し、期間中には GI department の外来・入院回診・GF の見学や、Internal medicine team の病棟回診、Nutrition team の回診の見学、USC の Keck Hospital と County Hospital も見学させていただくこともできました。

研修全体を通して、回診のスタイルの違い、部門の細分化、教育体制の徹底、情報のアップデートの速さ、勉強量の多さ、学術的側面の大きさが強く印象に残りました。

精神科は入院、外来、コンサルテーション部門が各々独立しており、さらに入院部門は急性期 (Psychiatry ICU)、慢性期、dual diagnosis (物質依存治療)、老年期のユニットに分かれるなど、部門ごとの細分化がはっきりしており、複数の疾患や診療場面、年齢層について 1 人の医師が全領域をカバーしている日本の体制との違いに驚きました。また、面接で確認する内容や診断する手順については日本と同様でしたが、診察や評価は回診を通して毎日スタッフ全員で行われる体制には大きな違いを感じました。

全体的な医療制度の違いも大きく、日本の精神科医療はリハビリ機能や福祉的側面もカバーしている面がありますが、カリフォルニア州では最低限の急性期治療のみが入院適応であり、在院日数はかなり短くなっていました。また、非同意入院は日本の措置入院と同等な症例のみで、全例で裁判所と直接対面のヒアリングを通さねばならず、しかも、非同意入院の認定の閾値はかなり高く、実際自分が関わった症例の非同意入院は認定されませんでした。また、集団療法や作業療法はすべて外来適応で、心理療法も入院ではほとんど行われず、理由として、入院費が極めて高額であることと、医療保険制度の違いが大きく、入院における集団療法や心理療法には保険会社から報酬が支払われない現状が影響していると思われました。

VA では退役軍人に対する補償があるため、一般の保険制度に比べると均一なケアが受けやすい環境にありますが、non-Veterans に関しては日本と同様の入院治療やリハビリプログラムを一概に行うことは難しいと思われ、厳しい社会構図になっていることが予想されました。

内科領域では科が違っても回診や外来の体制はほぼ全て一緒で、均一化されていることが印象的でした。回診にはカンファレンスの時間も含まれ、毎日行われており、議論される内容も一人一人についてかなり詳細で、現在進行形の問題点や困難な点が全員で共有されて十分な時間がかけられていることと、さらに最新の論文の情報が頻繁に飛び交っており、知識量の多さと活発な議論に感銘を受けました。私も含め研修生や医学生への質問や指摘も専門的、教育的で、その分、回診にかかる時間はかなり長いですが、ほとんど全ての方針が回診内で決定されるため回診後は業務が終了できるか、決まった方針の手続きのみで終了できるスタイルはとても効率的だし教育的だと感じました。

学術的な面では週 1～2 回の抄読会で計 5 つ前後の論文が読まれており、Grand Conference という学術講演会が週 1 回と、内科領域ではランチョンセミナーが毎日行われており、USC では Grand Conference に合わせてレジデントが研究業績や症例報告を毎週行っていました。基本的に全て日中やランチタイムに行われており、科や病院が違っても効率的に全員で勉強する体制が共通して根付いている文化に感銘を受け、研究や学術要素への力の入れ方や体制の違いを見て、国際競争という点では自分たちは厳しい現状にあるのではないかと感じました。

米国は専門職が多く、部署の細分化が進んでいるため、医師が患者の治療方針決定や自分の専門分野の活動に専念できる環境が整っている効率的な体制は魅力的だと感じましたが、その分各個人に求められる努力と競争も激しいと思われました。また、このシステムは米国の医療費が高額である要因の一つになっているとも思われ、いずれの点においても国民性、患者さんのニーズ、患者さん達の物事の考え方、保険制度、医療経済の基盤についての違いがかなり大きく、日米の違いは優劣では語れない部分が大きいと感じ、それぞれ落としどころが必要だと感じました。しかし、患者さんにとってより良いアウトカムを出すための、医師として知識・技術のアップデートや EBM の実践に対する努力と、スタッフ含めて皆が気持ちよく過ごせるように配慮する姿勢はすぐに参考にできるもので、自分も職場で実践し還元したいと思いました。

たくさんの出会いと機会に恵まれ、とても刺激的で楽しい時間を過ごすことができました。このような貴重な機会を与えて下さった全ての方に心から感謝申し上げます。

